

発達支援リーダー研修 1

研修名	支援を必要とする子どもの保育
	平成30年7月30日(月) 10:00~16:00
講演	「乳幼児期の発達と発達障害の理解」
講師	平安女学院大学短期大学部 清水 里美 氏

1 乳幼児期の発達理解

1) 発達を理解するとは

- ・何歳ころに何ができるようになるかを知ること
 - ・何ができたら、次は何ができるかを見通すこと
 - ・いま、何ができているのか、子どもの生活世界を発達の観点からとらえなおすこと
- これらの事を理解するには、固定された遊びより子どもの自主性を大切にした、自由遊びの様子を見ると個々の発達過程が見えやすい。
- ・運動、認知、言語の順に相互に関連しながら発達する。また、発達には個体差がある。社会や文化の影響も受ける。

2 乳幼児期の子どもの発達

2) 発達課題と発達の姿

誕生～1歳半頃・・・基本的愛着関係 / 感覚運動的段階

→養育者との間で基本的信頼関係を築き、外界への興味関心を行動を通して示す。

1歳半～4歳頃・・・自律性 身辺自立 / 象徴的思考段階

→第一次反抗期にあたり、自己と周囲の人々との関係を意識し始め、自己主張する。
この時期の「できた」経験が、自発性や自信につながる。

4歳頃～就学前・・・自主性 集団参加 / 直観的思考段階

→集団参加し、仲間とのイメージの共有やルールの共有が可能になる。
ごっこあそびでの役割分担ができるようになる。

～発達的な視点からの支援のポイント～

対人関係(集団生活)の中での成功体験が自立に向かう肯定的な自己イメージにつながる。

3 子どもの発達を観る

- ・・・発達支援の視点から、子どもの遊びの映像を鑑賞しグループ討議を行う。

4 発達障害特性の理解

- 1) MSPA(エムスパ)とは、発達障害の特性評価のための要支援度評価スケール
このスケールを用いることにより、発達障害の特性と行動の関係がわかり、今後の支援や家庭との共通理解にもつながる。

5 発達障害への支援

1) 子どもに対しての支援

- ・気になる子どもの問題を整理
- ・多面的なアセスメントのための情報収集
- ・将来の社会参加と自立が目標であり、その前提となる自己肯定感を高めることが重要

2) 保護者に対しての支援

- ・保護者が子育ての中で成功体験をもつことが、保護者自身の肯定的な自己イメージをもち、子どもの育ちに対する適度な折り合いのつけ方を身につけることにつながる。
- ・保護者の思いの背景(価値観や支援体制)を理解するよう努める。
- ・保護者の性格や考えに合わせて対応する←保護者に対しても伝え方のコツが必要。担任が変わるときに引き継ぎが重要。

〈 感想 〉

今回の研修では映像やグループ討議を通して、発達についての理解を深める事ができた。気になる子が増えてきている中で、発達の問題なのか個人差なのかの見極めが難しく、保育の中でその子にとってどの様な関わり方が大切なのか、また保護者へどの様にして伝え、支援に繋げていくかなど悩む事が多い。

普段からの自由遊びの姿にしっかりと目を向け、一人一人の発達を見守りながら子ども達にとってどの様な支援をしていくべきかを保育者間で共有していけるようにしたい。グループ討議では、色んな視点からの意見を出し合う事が出来、捉え方も様々で、個々の育ちをサポートしていく上でも、とても大切なことだと感じた。

限られた時間の中ではあるが、保育者同士で話し合いを行い、子どもや保護者にとってより良い支援をしていける様に努力していきたい。